



2015・7・11

第 209 号

101-0065 東京都千代田区  
西神田 2-5-7 神田中央ビル 303

TEL 03-3221-5075

FAX 03-3221-5076

## 「地域の多数派」めざし宣伝・署名に全力

### 採決は論外！ 廃案しかない

安倍内閣と自公与党は、衆院安保法制特別委員会における戦争法案の審議時間が 80 時間を超えたことを理由に、15 日にも委員会での採決を行う画策を強めています。しかし、法案推進の論陣をはっている「読売」の調査でも戦争法案に「賛成」は 5 月、6 月、7 月の 46%→40%→36%に対し、「反対」は 41%→48%→50%と、「反対」が「賛成」を大きく上回って半数に達しています。今国会での成立については、「賛成」の 25%を「反対」の 63%が圧倒しています。

国会内の多数だけをよりどころに採決など、まさに論外で、廃案にすべきです。

### 地域全域にチラシを配布

【沖縄県那覇市】 那覇市小禄（おろく）地区の小禄九条の会は、戦争法案の内容を知らせる「小禄九条の会ニュース第 22 号」を 4000 枚印刷、地域に配布したり、中学・高校の校門前での対話や署名活動で活用しています。

＜九条の会事務局主催＞

### 戦争法案は廃案に！ 九条守れ 九条の会交流・討論集会

会期末に向けてどのような運動を展開し、戦争法案を廃案に追い込むか。各地域・分野の九条の会による経験や意見を交流します。あらかじめ参加数などを把握するため、参加希望の方は、お名前、所属の九条の会、住所、電話 F A X 番号を事前に事務局まで F A X ・メール・郵便で御連絡下さい。

▽日時 8月12日（水）

午後6時から8時30分

▽会場 東京しごとセンター

東京都千代田区飯田橋3-10-3

（JR、地下鉄東西線・有楽町線・南北線 飯田橋駅下車 徒歩10分）

戦時中、小禄村には日本軍の飛行場や病院があり、米軍に激しく爆撃され、敗戦後は軍用地として撤収された歴史があります。

校門前の署名行動では、高校生たちが「戦争やるの?」「オレいやだよ。止めるにはどうしたらいいの」と不安を口にします。事務局長の小渡律子さんは、「だからお婆さんたち、反対しているんだよ。国民の声を国会にとどけることが大事」と話すと高校生たちが署名しました。小渡さんは、「草の根の活動を続け、地域で多数派になるよう努力していきたい」と話しています。

**【北海道札幌市】** 札幌市手稲区の新発寒9条の会は、地域の14ある町内会の住民に戦争法案の危険性を伝えようと独自のビラを4000枚作製しました。

B4両面刷り。表面はイラスト入りで分かりやすく戦争法案の中身を書き、裏面は会の取り組みや法案を廃案にするために「私たちにできること」を列挙し、一緒に声を上げることと呼びかけています。

会では「配る人がいないのでは」との心配も出ましたが、会員の30人以上が「何かしたいと思っていた。ぜひ、協力したい」と快く引き受けてくれました。

配布中に対話になることが多く、宅配の仕事をしている女性は、「戦争できるようにするなんて知らなかった。ビラを職場に置きます」と話してくれました。

### 街頭で紙芝居上演、167人が署名

**【東京都千代田区】** 千代田九条の会や損保9条の会は6月20日、約30人が参加して御茶ノ水駅前、九条の会東京連絡会が作成した紙芝居『戦争する国』にさせてたまるか」を上演しながらの宣伝行動を行いました。紙芝居の原稿をつくった元テレビプロデューサーの仲築間卓蔵さんは、「絵

があった方が、関心のない人にも見てもらえる」と話します。

反応は上々で、立ち止まって聞いていた原田登美子さん(83)は、「戦争で苦勞した世代です。若い人が『赤紙』で連れていかれるようになったら大変。安倍さんは間違っています」と語りました。2時間の宣伝で、167人の署名が寄せられました。

### 広がる青年の行動

**【新潟県青年】** 県青年9条の会は6月28日、新潟市で「僕たちの反アベ宣言—僕たちは戦わない」集会とデモ行進を行い50人が参加しました。

若者らがつぎつぎ怒りの決意を述べました。荒井佐和子さんは、「東京の若者憲法集会に参加して、若い人たちが自分の言葉で戦争法案反対を訴えていることに感動した。人の命を粗末にする社会に絶対にしてはならない」と訴え、田村美智子さんは、「国民の反対の声を聞かない安倍首相はごう慢で、怒り心頭だ」と語りました。

**【宮城県青年】** 県内の仙南青年9条の会(通称9ジョン=9条とジョン・レノンを掛けています)は昨年10月発足。農家、酪農家、料理人など多彩な顔ぶれが参加しており、「愛と平和」を歌おうとカラオケなどに友人を誘ってきました。

6月20日、会の代表で蔵王町でハーブ農園をひらいている平間徹也さんの農園でバーベキューが行われました。ジョン・レノンの代表作「イマジン」が流れるなか、長髪の鬘をかぶり丸めがねをかけジョン・レノンになりきった平間さんが登場、「自民党は自由とほど遠い、アメリカに迎合してい

る」と声を張り上げました。

妻の唯さんと3人の子どもと一緒に参加した菊池武士さんは、「安倍首相は言葉では『戦争することは絶対ない』というが、どうなるかわからない」と語りました。

仙台市から参加した吉見卓朗さんは「隊員は自衛隊に入ったときは海外で銃を持って戦うとは想定していなかったはず。廃案までがんばる」と語りました。

### 女性の声を集めて

【山梨女性】 山梨女性9条の会は19日、戦争法案廃案を求める「山梨女性共同アピール」を発表しました。

同会のアピール発表の呼びかけに、医師や大学教授、議員や元教師など、県内の女性182人が返信はがきにメッセージを添えて賛同。「周囲の農家、主婦の方々も皆不安を口にしています」「意思表示の場を与えていただき感謝」「強行採決を許さず、絶対に廃案に追い込みましょう」などの声が寄せられました。

アピールでは、法案について「成立すれば、自衛隊が戦闘の場に行き、武器を使用し『殺し、殺される』ことがまさに現実のものとなる」と指摘しています。

### 県内21の「九条の会」が結集

【三重県】 6月21日、津市で『戦争する国』STOP! 九条の会合同大集会が開かれました。戦争法案阻止の決起の場として開かれたもので、県内21の「九条の会」から参加した400人が「戦争法案は憲法違反だ!」「憲法9条守れ」などの声を響かせながら市内をデモ行進しました。

集会では「九条の会みえネットワーク」代表の西川洋三重大名誉教授があいさつ、秘密保全法に反対する愛知の会の中谷雄二弁護士が講演し、各「九条の会」の代表が壇上に並んで法案阻止への決意を述べました。

### 仕事帰りパレードやなぞかけコール

【山形県実行委員会】 県の九条の会などでつくる戦争法案阻止山形県実行委員会は6月25日、山形市内で「戦争法案阻止、仕事帰りパレード」を6bue行いました。同実行委員会は毎週木曜日、仕事帰りと昼休みのパレードを交互に実施する計画で今回が初めての仕事帰りパレードでした。

山形市役所前に集合した労働者や市民に、県九条の会の加藤静吾さんが、「安倍首相の暴挙をやめさせ、法案を廃案に追い込もう」とよびかけ、「戦争する国づくりストップ!」の横断幕を先頭にパレードしました。

【静岡県浜松市】 6月23日、市内の県弁護士九条の会、9条の会浜松地域連絡会が呼びかけたミニ集会とアピールウォークが行われ、500人が参加しました。

参加者は太鼓を鳴らして繁華街を行進、なぞかけシュプレヒコールとして、「集団的自衛権とかけてお風呂のマナーと解く。そのころは、戦闘（銭湯）に飛び込んではいけません」といったものも登場。店から出てきてみつめる店員や通行人、写真を撮る人、手をふっての応援もありました。

集会では、2歳の娘を抱いた鈴木裕美さんが、「親バカな私です。娘がどう育っていくか楽しみではない。この思いは平和でなければ実現しない」と訴えました。